

団体名 真田ゆめぐる project.

活動のテーマ

空き家を活かした「みんなの居場所づくり」と繋がりめぐる地域のヨコの関係づくり

助成対象活動に至った理由や背景

私たちの団体は、「真田の暮らしをたのしむ。地域につながる場をつくる」をミッションに2016年より活動しています。これまでは、公園や公民館を利用したり地域のお祭りで子どもコーナーを担ったりしながらイベントを企画運営し、活動を続けてきました。地域内外がつながる場所を増やしたいと思い、SNSでの情報シェアや、こちらから外に出向くなど、実験的に様々なことも試してきました。



今回、コロナという直面したことのない事態のなかで、普段の活動場所が利用中止となり、会えない、遊べない、使えない、「地域が分断される」という経験をしました。団体には、「次のイベントはいつですか?」「子どもたちが遊べる、集まれる催しはありますか?」などのメールが寄せられました。

そうした意見を受け、やはり私たちはどんな世の中であっても、信頼を元に集まれる関係を再構築したいと考え今回の企画が生まれました。ゆめぐるとしては初となる、リアルな“居場所”であり、“拠点づくり”に取り組んでいます。



最近では、真田に興味を持って引っ越しを考えてくれるクリエイティブ、30代を中心とした子育て世代にも多く出会いました。彼らと地域とのつながりも活動を通じてより深め、空き家活用を行う団体や、地域の企業、NPOなどとともに、「ちょっとお願い」「ちょっと教えて」、そんな暮らしが豊かになるヨコの関係を作りたいと考えています。

9月までの活動の進捗状況

押入れ解体：ボロボロだった押入れをスッキリさせました。県外からの参加もあり、「体を動かしたい」「力仕事ならできる」と初めての人が参加して下さいました。



りんご箱づくり：ひとつ以上寄付&持ち帰りも可にしたところ、DIY好きの女性が多くきてくださった印象です。もともとこの家にあたりりんご箱を参考に図面を起こし、余っていた廃材を利用して15箱作りしました。2日間開催お昼は持ち寄りBBQなど



建具の制作など：委託でお願いした職人さんに教えてもらいながら、地元の大学生と一緒に建具の活用を考え、デザインを書きました。ガラス戸になり鍵もついて、快適に明るい空間ができました。



壁塗り：下準備から養生、漆喰塗りまでの作業を1週間かけて左官屋さんに教えてもらいながら実施しました。新聞の取材も入り「自宅のDIYを考えている」という方が訪れてくれたことも企画の狙い通りで新しい交流が生まれ、嬉しかったです。



2階のアトリエおよび土間のラボラトリーは、藍染や柿渋、サステナブルなファッションと地元の産業をKWに地元のアーティストさんやNYのデザイナーさんが企画に加わってくださり、長野県立大学の学生も交えて次年度に向けた用意が進んでいます。（長くなるので割愛）

今後の活動予定

10月より離れの解体と土間作り、冬に向けてストーブや焚き火場所を作っていきます。少しスケジュールが変更になっているところもありますが、おおよそ計画通り、一部計画以上にコトが進んでいます。